

防災実践の水平展開に関する一考察
A Study on the Horizontal Expansion of Disaster Prevention Practices

○杉山高志・矢守克也
○Takashi SUGIYAMA・Katsuya YAMORI

This study analyzes horizontal expansion of disaster risk reduction practices. Horizontal expansion is a term that is often used to promote activities for disaster risk reduction, but it has not been examined what kind of theory can explain this concept. This study analyzed furniture fixation, a practice for disaster risk reduction, carried out in the Okitsu district of Shimanto Town, Kochi Prefecture, and the Kumanoura district of Kuroshio Town, Kochi Prefecture, with the aim of analyzing the mechanisms how horizontal expansion occurs. As a result, it was found that the residents of Kumanoura district were inspired to fix furniture after seeing a photo of a case study of furniture fixation conducted by the residents of Okitsu district. In other words, it was found that in order to promote furniture fixation, it is important to share the disaster risk reduction practices of districts with similar regional characteristics, rather than explaining the scientific necessity of furniture fixation. This study shows that horizontal expansion is a concept that is supported by the idea of similarity, rather than a deductive method of teaching practices.

1. 類似と演繹

ある地域の先進的な実践を別の地域でも展開する試みは、水平展開という言葉で推奨され、防災実践においても重要視されている。例えば、平成30年度防災白書でも、「(先進的な防災実践に関する)情報を地区内外に水平展開することで、減災・予防意識が伝播的に醸成されていく」と明記されている¹⁾。このように水平展開とは、防災実践を推進する上で重要なキーワードになっているが、この言葉の背景には、いかなる理論やメカニズムが駆動しているのだろうか。防災実践や防災教育における水平展開をテーマにした既往研究をレビューしたところ、学校防災教育の水平展開を行うために必要となる研究者と学校教員との連携のあり方を検討した石原の研究²⁾はあったものの、水平展開の概念自体に対して考察した研究は稀少であった。つまり、防災実践の推進のために水平展開という言葉は多用されているものの、その実、水平展開とはどのような理論に支えられた概念であるかを一顧だにされず、一種のプラスチックワードの様相を呈しているといえる。

そこで本研究では、水平展開がどのようなメカニズムで起こりうるのかについて分析することを目的に、防災実践の事例を分析した。特に鍵概念として、「類似」と「演繹」の概念を用いて分析を

行った。認知科学領域では、人間の思考はルールや公式といった演繹的なものではなく、文脈依存性に基づく類似を用いたものであると指摘されている³⁾。例えば、同じ演繹規則や公式、解法を用いる問題であっても、その問題が与えられる文脈によって成績が異なることが、認知科学の実験から明らかにされている。つまり、類似を用いた思考が基盤にあることを意味している。また、社会学においても、同様の指摘がなされている。例えば矢守⁴⁾は、社会を捉える方法は「純粋化」と「平均化」があり、「純粋化」とは対象や事象を極端化しデフォルメすることを意味し、平均値から外れた視座のため事象を捉えるには不適切なもののように一見思われるが、有名人の似顔絵のように「純粋化」すなわちデフォルメした顔の方が、その有名人をわかりやすく伝えることができると指摘している。つまり、脱文脈化した平均化よりも、文脈に極端に依拠した純粋化の方が、対象や事象のことを伝えやすいということである。これらのことから、演繹的な思考、平均化された視座とは対照的に、類似の思考、純粋化された視座にこそ、水平展開を駆動させるメカニズムが内在しているのではないかと仮説を立てた。本研究では、以上の概念整理を行った上で、防災実践の事例分析を行った。

2. 家具固定の水平展開

本研究は、高知県高岡郡四万十町と高知県幡多郡黒潮町を対象に、家具固定の防災実践についての分析を行った。四万十町と黒潮町には、南海トラフ地震の新想定によって津波浸水が懸念される地域があり、積極的に防災を推し進めている。

本研究で分析の対象とする家具固定は、内閣府の世論調査⁵⁾によると40.7%の世帯で行われているものの、「面倒だから」や「お金がかかるから」、「家具固定する方法がわからないから」といった理由で過半数の世帯で行われていない現状である。東京消防庁⁶⁾の調査では、地震による負傷者の30%から50%が家具類の転倒、落下物による負傷とされており、憂慮すべき状況にあるといえる。その中、名古屋市を中心とした高齢者世帯に各戸訪問して家具固定を住民に代わって実施する「かぐてんぼう隊」の活動が行われている。児玉ら⁷⁾は、「かぐてんぼう隊」の活動によって、自助の活動と見なされてきた家具固定の実践は、地域ぐるみで取り組むことによって効果的に推進されると分析した。

本研究では2015年以降、「かぐてんぼう隊」と類似するアプローチで、四万十町興津地区にて家具固定の補助をする地域実践を地域住民や四万十町役場、地元企業と協力して実施した。その結果、60世帯以上の住宅の家具固定をすることができた。その事例を、2016年1月に、四万十町興津地区と地理的に隣接する黒潮町熊野浦地区にて、興津地区で家具固定をしている様子を撮影した写真(図1参照)を用いて紹介をしたところ、黒潮町熊野浦地区で家具固定が必要な世帯の全戸で、家具固定を実施することができた。筆者らは、この現象に注目し、すでに家具固定を行った隣町の事例を、まだ家具固定を行っていない住民が見ることによって家具固定を推進した要因を、インタビュー調査によって分析することにした。

その結果、85%の住民が以前から家具固定の必要があると認識していたものの家具固定をしなかったことがわかった。そして、62%の住民が興津地区の事例を写真で見たことが、家具固定をするきっかけになっていたと回答した。詳しく聞き取ると、「ひと目でわかって親しみが持てた」「これが東京の事例では家具固定をしようと思わなかった」「隣町の事例で、自分にもできると思った」など回答を得た。これらの視点は、興津地区と熊



図1 興津地区の住宅に家具固定をしている様子

野浦地区の地域特性が類似していたために生じたものであり、家具固定を推進するためには、家具固定の必要性を科学的に説明することだけではなく、地域特性に似ている地区の防災実践を教えることが重要であるとわかった。このことから、水平展開とは、演繹的に実践の方法を伝えることだけではなく、類似という思考に支えられて行われる概念であることが示唆された。

3. 参考文献

- 1) 内閣府 (2018) 平成30年版 防災白書
http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h30/honbun/1b_1s_01_05.html (最終閲覧日: 2021年1月22日)
- 2) 石原凌河 (2017) 水平展開を目指した学校防災教育における研究者と学校教員との連携: 徳島県阿南市におけるクロスロードを題材とした防災教育授業を事例に, 龍谷政策学論集 6(1・2), 77-89.
- 3) 鈴木宏昭 (2019) 類似と思考・改訂版, 筑摩書房.
- 4) 矢守克也 (2005) 〈典型性・純粹化〉の論理と機能—防災活動に見る詩的表現— 第69回日本心理学会ワークショップ「詩的表現の語りの力—質的心理学の方法論(2)」.
- 5) 内閣府 (2013) 防災に関する世論調査
<http://survey.gov-online.go.jp/h25/h25-bousai/index.html> (最終閲覧日: 2021年1月22日)
- 6) 東京消防庁・家具類の転倒・落下防止対策推進委員会 (2005) 家具類の転倒・落下防止対策推進委員会における検討結果.
- 7) 児玉道子・鈴木博志 (2010) 家具類の転倒防止対策推進のための実践的、方法論的研究: 災害時要援護者へのボランティア活動「かぐてんぼう隊」運動の拡大に向けて, 福祉のまちづくり研究 11(2), 29-40.